

【石川県】

現在の景気：一部に停滞感がみられるものの、緩やかな持ち直しの動き。

3か月程度の見通し：政策効果や震災からの復興需要を背景に持ち直し基調が続くとみられるものの、海外景気の下振れや原油価格の上昇などの影響が懸念される。

個人消費：復調の足取りはまだら模様。2月の大型小売店販売は前年比5.3%減と12か月連続で減少。降雪の影響から、衣料品を中心に春物商品の出足が鈍い。3月の乗用車販売は、新車登録車が前年比67.0%増加、軽自動車74.9%増加、全体では前年比69.7%増と7か月連続で増加。エコカー補助金の復活や新型車の投入効果から、好調に推移。

住宅建築：弱い動き。2月の住宅着工戸数は、分譲住宅が前年比16.7%増加したものの、持家が3.0%減少、貸家が50.3%減少し、全体では前年比20.3%減と5か月連続で減少。

設備投資：一進一退。2月の着工建築物床面積（非居住用）は前年比7.3%減と2か月ぶりに減少。

公共工事：一進一退。2月の公共工事請負額は、県が前年比40.4%減少、市町が12.1%減少したものの、国が97.0%増加し、全体では前年比7.8%増と2か月ぶりに増加。件数は前年比2.8%増と4か月連続で増加。

生産活動：足許低下したものの、持ち直し。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比0.9%低下し102.6と2か月連続で低下。主要産業である機械は、一般機械が前月比1.2%上昇、輸送機械が2.1%上昇したものの、電気機械が1.5%低下し、全体では前月比4.5%低下。繊維は前月比3.0%上昇。原指数は前年比7.5%低下し2か月連続で低下。

観光：浴客数の持ち直しに一服感。2月の県内主要温泉地浴客数（速報値）は前年比10.9%減と3か月連続で減少。震災以降に増えていた関東からの個人客が一服。県内主要観光地の入込み状況（速報値）は前年比15.1%減少。兼六園の入込みは減少。

雇用情勢：引続き厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きが広がる。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.01ポイント上昇し0.94倍。新規求人数は23か月連続で前年比増加、有効求人数は22か月連続で増加。

（トピックス）

石川県の人口と世帯の推計によると、2011年10月1日現在の推計人口は前年比3,473人減の116万6,315人。比較可能な1971年以降、年間の減少人数が過去最多。出生者から死亡者を差し引いた自然動態は2,430人減少、転入者から転出者を引いた社会動態は1,043人減少。自然動態は7年連続、社会動態は16年連続でともに減少。転入、転出者の状況をみると、隣県、大都市圏との間で移動が多い。転入超過は20道県で、震災の被災地である福島からは144人の転入超と、新潟、富山に次いで多い。東京、大阪など25都府県で転出超過。